

小5国語(4)

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えましょう。

(少年が、道をたずねたおばあさんを案内しています。)

「まどろっこしいでしょう。ごめんなさいね。」

「いいえ、大丈夫です。うちのおばあちゃんもゆっくり歩くから、慣れます。」

「あら、おばあちゃんと一緒に住んでいらっしゃるの？ いいわねえ。私は一人でねえ、さびしいものですよ。」

(こういうとき、なんていつてあげればいいのかなあ。)

「いいえ、一緒じゃありません。でも近くにいます。」

「坊やさんは、おいくつですか？」

「十一歳です。十一歳と一ヶ月。」

「私はねえ、腰の骨のカルシウムが少なくなつて、骨がすりへつてしまふ病気なの。老人性の病気で、完全にはよくならないんですつて。」

「あ、うちのおばあちゃんも同じです。でも、なるべく歩いた方がいいそうです。」

「そうですつてねえ。」

「ここです。」

と少年は左手の建物の前の、コンクリートのスロープを指さした。

「ありがとうございました。助かりました。」

「しました。」



氏名

月 日

おばあさんは頭をさげた。

「どういたしまして。」

と少年も頭をさげた。頭をあげると、まだおばあさんはさげていたので、少年はもう一度頭をさげた。そして ^② ちょっと上目づかいをして、おばあさんと一緒に頭をあげた。

自転車に乗つて走り出そうとして、おばあさんの姿を振り返ると、もう半分ぐらいはスロープを登つたかと思ったのに、まだ地面近くにいるのだ。少年はおばあさんに走り寄つた。そして自分のおばあちゃんが階段を上るときのように、肩を貸して腰を支えてあげた。

スロープの一番上まで登ると、おばあさんはまた頭をさげた。少年も、今度は頭をさげたまましばらくそのままにして、それから頭をあげた。少年はおばあさんの目を見て、びっくりしてしまつた。

^③ 涙がじんいでいたのだ。

(まいつたなあ。うちのおばあちゃんもそうだけど、すぐ泣くんだよなあ。坊やさん、か。まいつたなあ。)

少年はまた自転車に乗り、せまい道を抜け出し、大きな道路に出た。

(千刈あがた「十一歳の自転車」による。)

――線部①「こういうとき、なんていってあげればいいのかなあ。」

とあります。このときの少年の気持ちとして、最もふさわしいものを、次の1から4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

文はどうですか。文章中からはじめの五字をぬき出して書きましょう。(句読点も一字としてふくめます。)

- 1 自分をこまらせるおばあさんに対し、その番号を書きましょう。
- 2 おばあさんの気持ちが分かっているのに、何もできない自分におこつていて。

3 おばあさんの気持ちが伝わってきて、悲しくなっている。

4 おばあさんを元気づけてあげたいが、何と言つていのいか分からないのでとまどっている。

――線部②「ちょっと上目づかいをして」とありますが、少年はなぜ上目づかいをしたのですか。次のように説明したとき、

に入る言葉を、文章中から五字でぬき出して書きましょう。

おばあさんが□かどうか、確認している。

□□□□□

――線部③「まいったなあ。」を声に出して読むとき、どのように読むのがよいですか。最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 こまつた様子をこめて読む。

2 少しうれしさをこめて読む。

3 別れるのがつらそうに読む。

4 晴れやかな気持ちをこめて読む。

四 少年がおばあさんのことを心配そうに見まもる様子が書かれた

考え、次のように発表しました。

――この文章を読んだ中田さんは、【特に心に残つたこと】について

【特に心に残つたこと】

おばあさんの目に涙がにじんでたどころが心に残りました。

あなたは、おばあさんの目に涙がにじんでいたのはなぜだと思いませんか。次の〈条件〉にしたがつて書きましょう。

〈条件〉

○文章中に書かれている、ふだんのおばあさんの生活の様子から取り上げて書くこと。

○五十字以上、七十字以内で書くこと。

○原稿用紙の使い方にしたがつて書くこと。

○・の部分から書き始めるうこと。



50
70